イトムカからのメッセージ——徴用工問題を考える

2020、9、12

木村　玲子

はじめに　　拙著『イトムカからのメッセージ』(2016年4月発行)について

(1)「慰霊碑を建てる会」発足までとその後

(イトムカにおける朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働による犠牲者の慰霊碑を建てる会)

1、イトムカ(伊屯武華)という所——アイヌ語で「光輝く水」

石北峠(標高1050m)を東に下った武華岳の麓に元山地区(標高約900m)と大町地区(標高約650m)……一時は東洋一と呼ばれた水銀鉱山

1936(S11)年の台風で——風倒木調査——赤く光る石——矢嶋澄策氏(鑑定、初代所長)

1939(S14)年開山——野村合名会社(野村徳七氏)——野村鉱業株式会社

1973(S48)年閉山——野村興産K・K——水銀などのリサイクル業

＊故郷イトムカ……1946年イトムカに生まれ1960(S35)年14歳まで過ごす

2、2006(H18)年～2008(H20)年……『思い出のイトムカ』を編集……イトムカ出身者10人

○ 戦時中、勤労学徒、女子挺身隊としてイトムカで働いたという数人に出会う……朝鮮人と共に働いたという経験を語る……イトムカの埋もれた歴史を再確認……このままでよいのか？

○ 「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム」創立講演会
……西本願寺札幌別院にイトムカの"合葬"された遺骨箱が安置されていることを知る
(旧地崎組が岩田地崎建設として合併される際に"合葬"された)(留辺蘂専念寺、大雄寺)
……どうしようというあてもなく聞いていた

3、2010年3月「中国人強制連行の真実　大府飛行場」の新聞記事

(「しんぶん赤旗」2010、3, 21～23日付)

「北海道留辺蘂(るべしべ)町(現・北見市)の伊屯武華(いとむか)事業所に連行」
「第2回殉難者追悼式に生存者2名招待」

○ 2010年9月愛知県東海市玄猷(げんにゅう)寺にての追悼式に参列

……唐燦さん(84歳)　楊　印山さん(85歳)に出会う

(娘　唐元鶴さん　　息子　楊　福庄さん)

4、戦時中のイトムカ野村鉱業K・Kにおいて

水銀の用途……鉄砲の起爆剤、船の艦底塗料……軍需産業　(古代から「丹」として重宝)

従業員　　S17～19　3000人～5000人……朝鮮人(半島人)…募集、官斡旋、徴用
勤労学生　女子挺身隊員……於・主に元山　(後半大町も)

中国人……「華人労務者移入方針」 1942年 閣議決定 (地崎組　商工大臣 岸信介)
1943年 試験導入……1420名
1944年3月正式導入……38939名　死亡6830名
第1陣 地崎組　石門隊 296人　済南隊 200人(計496人)…死者31名

44年3月21日 青島——船中1人——下関5人——3月31日留辺蘂2人(大黒座)——
4月1日以降イトムカ 8人死亡(死亡診断書 医師 守谷富太郎)(計480人)

石門隊……大町の宅地造成　4月2日～8月15日……その後置戸へ(溜め池造り)
済南隊……56号ダム掘削？　「昭和19年11月竣功　地崎組」(「水神」碑 裏面)

44年11月30日～480人 愛知県大府飛行場建設(三菱重工)に移動……5人死亡
(2007年頃から～大府飛行場中国人強制連行問題愛知対策委員会)

45年6月30日～475人　北海道赤平(平岸)に移動……石炭から石油を造る「油化工場」建設に伴う道路などの開削整備……10人死亡
(うち8人は戦後の内部抗争で死亡)(芦別事件の駅)

終戦～10月帰国の途～465人＋105人
(19日平岸出発～20日室蘭港～30日塘沽(タンクー)到着

イトムカ宿舎＝「華人第一収容所」となり全国から 107人移動(逃亡、反抗)1944年12月
……宅地造成作業(うち2人死亡)……45年8月27日平岸に合流

5、その後の経過

①**2011年7月**——中国黄石市に住む唐燦さんの娘 唐元鶴さんよりメール
送った写真のお礼……「北海道へもぜひいらしてください。イトムカ、平岸を案内したい」と返信。

②**2012年8月——唐元鶴さん来道……平岸、イトムカを巡る**……ここに至るまでの多くの方々の援助　(滝川の石村さん　留辺蘂の中川さんら)
この時初めて「水神」碑の存在を知る(イトムカ56号溜め池跡地に建つ)
ここで亡くなった方々を偲んでささやかな追悼式……「本当の慰霊碑が欲しい」

③**2013年8月**——愛知日中友好協会の方々が大府飛行場に連行されてきた方々の足跡を北海道に辿る——イトムカをに案内する(中川さんの尽力)
＊置戸町営墓地にある「中国人 朝鮮人殉難慰霊碑」前で追悼式(S58年建立)
＊当時イトムカも検討されたが、反対にあって立ち消えになったことを知る
＊地元にある有力企業である 「野村興産」とその従業員への気遣い
当時はまだ「旧野村鉱業」に勤めていた人も多く住んでいた。
(＊取り敢えず、毎年、「水神」碑の前で追悼式をしよう。)

◎ 第1回「岩田地崎建設」(本社札幌市)に「提訴状」申し入れ… 大府飛行場対策委員会

(大府で死亡した宋學海さんの弟宋殿挙さん来道)

＊ 「真摯に受け止める」「話し合いは継続する」……一歩前進

④2014年8月　「水神」碑前で第1回の追悼式～以後毎年夏に開催している
（北見　留辺蘂　旭川　札幌　釧路　北広島　矢臼別　）

＊「慰霊碑」を建てる場所の検討……野村興産の敷地内……断られる
設備と技術は受け継いでいるが、そうした歴史は受け継いでいない
……後に交通の便がなく不適と判断
国道39号線沿い　滝野駅通付近　イトムカ墓地（留辺蘂）

⑤2015年10月　中国黄石市に唐燦さんを訪ねる……イトムカでの仕事や宿舎について
仕事……イトムカ大町での宅地造成作業
宿舎……その下のかつての森林軌道の終点あたり
1944年8月から置戸に回され、溜め池造成作業

11月　◎第2回「岩田地崎建設」に申し入れ…愛知大府飛行場強制連行対策委員会

⑥2016年10月　留辺蘂町内に敷地3か所の候補地を見つけ
「慰霊碑を建てる会」立ち上げて、募金活動を開始　（最低目標200万円）

＊　碑の彫刻デザインを二部黎さんにお願いする（藻岩発電所下の慰霊碑）
（現在　矢臼別に移住し、「矢臼別平和資料館」の建設に携わる）

⑦2017年9月　日中愛知の調査団と愛知県立大学の学生たちと共に中国を訪問

＊湖北省黄石市……　唐　燦さん（91歳）
＊河北省シン台市……王　連喬さん（89歳）
（刑にオオザト）　宋　殿挙さん（大府で死亡した宋　學海さんの弟）
＊河北省定州市……　楊　印山さんの子息　楊　福庄さん

◎「旧地崎組」（現岩田地崎建設）に対する「提訴状」にサイン
（「提訴状」＝1、謝罪　2、賠償　3、未来への教育、記念館や慰霊碑建立）

＊天津市　「在日殉難烈士・労工記念館」……6723名の犠牲者の名簿
2316柱の遺骨箱（大府で死亡した5人の遺骨箱）
＊北京市　盧溝橋の傍の　「北京人民抗日戦争記念館」見学
感想集に「勿忘国恥」の言葉

⑧2017年10月　留辺蘂にて第1回民衆史講座（講演会）～以後3回継続
第1回目　講師　後藤守彦さん　「日本の戦争とアジア」
木村「慰霊碑を建てる会の発足まで」……いくつかの懸念と課題

「心の中で追悼すればよい」「わざわざ顕在化する必要はないのではないか」
地元の企業であるところから来る懸念（忖度）　従業員への気遣い
＊しかし、住民の意識は薄れる一方で、知らないという世代も多い。このままではますます風化してしまう……改憲の動きが忍び込む
＊「慰霊碑は」事実を忘れないための記憶の場……忘却に対する記憶のたたかい

⑨　2019年4月　◎第3回「岩田地崎建設」に申し入れ
「提訴状」についての申し入れの他、

「水神」碑のこと、「慰霊碑」建立の運動についても伝えたが……
「真摯に受け止めます」「話し合いは継続してゆきたい」(前回と同じ回答)

⑩ 2020年7月30日　第7回「水神」碑追悼式……コロナ禍の中、江別、留萌からも。17名参加
現在、建立場所を今後の管理を考えて「留辺蘂町墓地」を提供してもらえないか
北見市に要請中

＊　　＊　　＊　　＊

(2)「徴用工問題」を考える

(韓国との関係)

1965年　日韓条約……「日韓請求権協定」——朴正熙軍事独裁政権
日本の経済協力資金(5億ドル～うち3億ドルは物資)＝経済復興のために使用
(募集、官斡旋、徴用)で働かされた朝鮮人70万人～100万人の個人補償はされていない(1942「朝鮮人内地移入斡旋要綱」1944「国民徴用令」)
返却されていない遺骨もある(ex「西本願寺札幌別院"合葬"された遺骨)

2018, 10、30　元徴用工4人が新日鉄住金K・Kを相手に損害賠償を求めた裁判の判決
(1995年大阪地裁)
韓国大法院判決……「個人の請求権は放棄されていない」「一人約1千万円を」
韓国政府……司法の判断を尊重……いつでも話し合いに応じる
日本政府……「日韓請求権協定で完全かつ最終的に解決済み」……日韓関係悪化

2020, 8、　韓国国内の同社資産差し押さえ　司法手続き完了

○ 植民地支配は合法なのか、違法だったのではないか？
○ なぜ賠償ではなく「経済協力資金」なのか？
○ 被害者の受けた人権侵害をどうするか？

(中国との関係)

1972年9月　日中共同声明……周恩来　田中角栄……日中が国交を結び正常化した
日本政府「戦争で中国国民に重大な損失を与えた責任を痛感し深く反省」
中国政府「中日両国人民友好のために日本への戦争賠償請求を放棄する」
……強制連行問題を棚上げ

1978年　日中平和友好条約

1942年　「華人労務者移入ニ関スル件」……閣議決定(1942, 11, 27)
43年　試験導入 (1420名　東日本造船函館工場 431名)
44年　正式導入 (38935名 …試験導入含む　死亡者6830名)
～45年　全国35企業135事業所のうち北海道19社58事業所
(全国43%　死亡者45%)
1990年頃～　訴訟　裁判(約4万人のうちの1500人対象)
1995年　中国政府は個人による賠償請求を「阻止も干渉もしない」
1998年～　原告5人広島地裁に訴訟

2007年　　最高裁で敗訴……「補償問題は解決済み」という判決文だが、強制連行・強制労働の罪行の事実認定はされ、 付言として
「被害者らの苦痛は極めて大きく、西松建設を含む関係者において、本件被害者らの被害救済に向けた努力が期待される」
＊加害国は個人の被害にどう向き合うか？

2009　　**西松建設　安野発電所（広島）**　　和解……謝罪、賠償、記念碑
「西松安野友好基金」（360人に2億5千万）
2010年　　〃　　信濃川（新潟）　　〃

1990年　**鹿島建設　花岡鉱山（秋田）**（花岡事件　1945, 6, 30　986人…420人死亡）
2000年　和解　鹿島5億円（謝罪は無し）「花岡平和友好基金」（民間）（東京高裁）

2015年　花岡鉱山強制労働に従事していた中国人と遺族らが日本政府を訴え
大阪地裁に訴訟を起こす「中国人を拉致・連行し強制労働に従事させたうえ、戦後も事実の隠蔽を続けた」～憲兵らが拷問、弾圧した
～19年　大阪地裁請求棄却
～20年2月4日　大阪高裁控訴棄却
1985年から　大館市で毎年蜂起の日（6月30日）に慰霊祭

1998～03年　**日本冶金大江山ニッケル鉱山訴訟（京都地裁）**……敗訴だが、
「国と企業の共同不法行為」…「企業は不当利得返還義務を有する」
「国家は国家無答責を援用することはできない」……画期的な判決
～6人の原告にのみ一人350万円、計2100万円を支払う（大阪高裁）…和解
2007年～　最高裁「日中共同声明により、個人の訴権は放棄された」（上告棄却）
（2017年被害者遺族の代表が来日し、現場を訪れ、交流）

2016年　　**三菱マテリアル**　　〃
2014年から7原告団が北京市の「河北省法院」に訴状
12事業所　3765人（1人約170万円の賠償金）……和解
地崎組大夕張388人（死者148名）を含む
＊　現在美唄市に記念碑建立の動き　（決定）

2012年～　　**地崎組提訴**（愛知大府飛行場犠牲者を支援する会）　～和解に至っていない
①法的、人道的責任を負い、謝罪を
②後代への教育と中日友好のための記念碑、記念館を
③物質的、精神的損失を償うこと

＊ ドイツの例　　ナチ時代の奴隷労働、強制労働に対して政府と関連企業が謝罪、賠償の「記憶・責任・未来」の基金を創設し、167万人に賠償金を支払い（2017年）、活動は今日まで続いている。

以上

強制労働　犠牲忘れずに

「イトムカ鉱山」ダム跡地で追悼式

北見市留辺蘂町内の「イトムカ鉱山」で戦時中の強制労働により亡くなったとされる外国人らの追悼式が7月30日、旧野村鉱業の敷地内のダム跡地（町富士見）で開かれた。

犠牲者の慰霊碑建立を目指す市民団体「慰霊碑を建てる会」が主催し、今回で7回目。この日は北見市のほか、留萌市など道内から15人が出席した。参加者は、ダム跡地にある「水神」碑の前で手を合わせ、僧侶の読経を聞きながら静かに祈りをささげていた。

イトムカ鉱山は東洋一の水銀鉱山と呼ばれた一方、判明分だけで朝鮮人や中国人、日本人作業員約80人が犠牲になったとされ、1973年に閉山した。

会の代表を務める木村玲子さん（74）＝札幌市＝は「強制労働の問題は、いまだに解決されていない部分があり、今後も忘れずに考えていきたい」と力強く話していた。

（山田健裕）

電子版に動画

僧侶の読経を聞きながら静かに祈りをささげる参加者たち

オホーツク北見

北見支社　〒090-8655
北見市幸町1丁目2番17
▷報道　☎0157・24・4456
FAX　25・7980
Eメール
kitami@hokkaido-np.co.jp
▷広告・販売　☎24・4455
網走支局　〒093-0018
網走市南8条西2丁目
☎0152・44・7211
FAX　45・0022
美幌支局　〒092-0050
美幌町大通北4丁目
☎0152・73・2018
FAX　72・3794
遠軽支局　〒099-0404
遠軽町大通北2丁目
☎0158・42・2211
FAX　42・5575
紋別支局　〒094-0015

道新(夕)'20.9.3

今日の話題

イトムカ慰霊

戦時中、日本に強制連行されるなどして建設現場や炭鉱で過酷な労働を強いられ、犠牲となった中国人や韓国人が数多くいた。かつて東洋一の水銀鉱山と呼ばれ、1973年に閉山した北見市留辺蘂町の「イトムカ鉱山」もその場所の一つだ。

今年も7月下旬にイトムカでの犠牲者の追悼式が行われた。留辺蘂町出身の元教員木村玲子さん(74)＝札幌市在住＝が呼びかけ、7回目の開催。木村さんの父は戦後に同鉱山で働いていた。

十数年前、鉱山関係の元住民らの記念文集「思い出のイトムカ」を編集した。すると戦時中に鉱山で働いていた朝鮮人や中国人についての記憶を書いてくれる人がいた。子どもの頃かすかに聞いた覚えがあった木村さんは、以後積極的に強制労働のことを郷土史家の講演などから学ぶようになった。

強制労働の生存者だった中国人男性が来日し、会う機会にも恵まれた。2012年には男性の娘が来道し、留辺蘂町の旧鉱山周辺も案内した。その時の同行者が犠牲者へお経をあげたのが後の追悼式開催につながった。

数年前からは慰霊碑を建てる会を結成して寄付を募り、すでに200万円以上が集まっている。現在は建立場所の選定を急ぐ。木村さんは「碑が建てば、こうした歴史があったことを知るきっかけになる。数年以内に実現できれば」と話す。

戦後生まれが戦争のことを伝え継がねばならない時代。戦後75年を経た今からでも次世代のためにできることはある。（木崎　美和）

2020.9.3